

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

令和4年度

編入学 専門科目試験問題

(100点)  
(60分)

千葉県立保健医療大学 健康科学部

看護学科

注意事項

1. 問題冊子は、表紙を除き5頁である。
2. 問題冊子及び解答用紙の印刷が不鮮明などの場合には、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答は、必ず黒の鉛筆（シャープペンシルも可）で解答用紙に記入すること。
4. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
5. 不正行為に対しては厳正に対処します。

【問題 1】以下の文章について、空欄 1～23 にあてはまる適切な語句を入れなさい。  
解答は解答欄に記載しなさい。

1. 平均寿命と健康寿命の差は、( 1 ) に制限のある期間である。
2. 感染症に罹患した児童生徒の出席を停止することができる者は、( 2 ) である。
3. 地域包括支援センターは、圏域ごとに多職種協働による個別ケースの課題を解決するための ( 3 ) 会議を主催している。
4. 地域包括ケアシステムは、おおむね ( 4 ) 分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域を単位として想定している。
5. 出生体重 3,150 g の新生児の日齢 3 の体重は、3,050 g であった。このときの体重減少率は ( 5 ) % である。ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第 2 位を四捨五入すること。
6. 国際社会が抱えるヘルスケアを含む課題に対して、すべての国に適用される普遍的 (ユニバーサル) な目標として 2015 年の国連サミットで採択されたのは、( 6 ) である。
7. 患者が医療者の推奨する方法に同意して、服薬、食事療法、ライフスタイルの改善を実行することを ( 7 ) という。
8. がん薬物療法では、薬物有害反応が避けられない。この評価には、一定の基準によって評価を客観化かつ標準化するため、米国国立がん研究所により作成された ( 8 ) が用いられる。
9. 手術開始前に執刀医、麻酔医、看護師が、作業を中止し、患者の氏名や術式、手術部位の左右などを確認する、事故防止のための安全対策を ( 9 ) という。
10. HbA1c 値は、血糖コントロール状態の重要な指標である。過去 1、2 か月間の平均血糖値を反映する。糖尿病治療において、合併症予防のための目標値は、HbA1c 値 (NGSP) が ( 10 ) %未満とされている。
11. 深部静脈血栓症は、血液凝固性亢進や静脈血流の停滞、静脈内皮の障害によって静脈内腔に血栓が形成された状態である。下肢を進展した状態で足関節背屈時に腓腹部に痛みを感じる場合、( 11 ) は陽性であり、下肢深部静脈血栓症を疑う。

12. 脅威が予測されたときに、先のことを予測して悩むことを予期的心配、先のことを予測して嘆き悲しむことを予期的悲嘆という。患者が問題に直面した時にスムーズに解決できることを目指し、看護師が患者に予期的心配や予期的悲嘆を行わせることを（ 12 ）という。
13. トランスセオリアルモデル（transtheoretical model）は、ヘルスプロモーションや慢性疾患を持つ患者の行動変容を促すために用いられている。人は、自分の健康行動を変えて維持する際に、①無関心期、②関心期、③（ 13 ）、④実行期、⑤維持期の5つのステージを経ると考えられている。
14. 胎児循環で酸素を最も多く含む血液が流れているのは（ 14 ）である。
15. 体内に感染や何らかの組織障害が起こると、血液中に急性期反応蛋白質の一種である（ 15 ）が上昇する。この蛋白質は炎症の有無を判断する検査としてよく用いられている。
16. 死の三徴候とは、心臓（心拍動）の停止、自発呼吸の停止、（ 16 ）である。
17. オランザピン<非定型抗精神病薬>を投与する場合、（ 17 ）の患者や昏睡状態、アドレナリン投与中、バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者には禁忌である。
18. こどもの治療、処置、検査などによって生じる不安や恐怖を最小限にし、こどもの心の準備を整えることを、（ 18 ）という。
19. 呼吸窮迫症候群は未熟児にみられる呼吸器疾患で、（ 19 ）という肺胞を覆う物質が産生されないか不足しているために、肺胞が拡張した状態を保てないことで起こる。
20. ウェルニッケ脳症は、（ 20 ）の欠乏によって起こる脳症のことで、アルコール依存症を伴っているケースが多い。
21. 産前産後休業は、（ 21 ）法に定められた措置である。
22. 摂食・嚥下のプロセスは、①食物を認知して食べる構えをつくる（ 22 ）、②咀嚼運動によって食塊形成する準備期、③食塊を咽頭へ送り込む口腔期、④嚥下反射によって食塊を食道へ送り込む咽頭期、⑤蠕動運動により食塊を胃へ移送する食道期、の5期に分類される。
23. （ 23 ）は、脳に存在する松果体から分泌されるホルモンで、概日リズム（サーカディアンリズム）を調節する作用をもつ。

【問題2】以下の事例を読み、問いに答えなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

Aさん(85歳、女性)は、夫(90歳)と二人暮らし。認知症と診断されており、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準はランクⅡbである。これまで、Aさんは、「役所の世話にはなりたくない」と言い、要介護認定を受けることを承諾していなかったが、1か月前に家の中で転倒したことをきっかけに、要支援1の判定を受け介護予防訪問看護が導入された。

問1 認知症高齢者の日常生活自立度のランクⅡbとはどういう状態なのか、簡潔に説明しなさい。

問2 Aさんは、食事の支度は自分の仕事だと言い、毎日歩いて5分ほどのスーパーマーケットに買い物に出かけるのが日課になっている。しかし、最近、3時間以上たっても家に帰ってこないことがあり、夫が探しに行くと、スーパーマーケットとは反対方向にある公園のベンチに座っていることが数回あった。夫は「この前探しに行ったときに、“私の後をついてきたでしょ”と言って、すごい剣幕で怒ったんですよ。でも、このままでは心配で困っています。」と訪問看護師に相談した。

訪問看護師として、夫に対してどのように助言するとよいと考えますか？助言内容とその理由を簡潔に記載しなさい。

【問題3】以下の事例を読み、問いに答えなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

Bさん(40歳、女性)は、胸腔鏡補助下左肺下葉切除術+リンパ節郭清(病期分類:ステージIB TNM分類:T2aN0M0)を受けた。術中出血量は300mlであった。術直後は、胸腔ドレーン、末梢持続点滴、膀胱留置カテーテルが挿入され、ベンチュリーマスク(8L/min, 40%)で酸素吸入をしていた。帰室時、Bさんの意識は清明で、看護師が深呼吸を促すと2~3回行えた。全身状態を観察すると、体温37.0℃、血圧110/68mmHg、脈拍76回/分、呼吸15回/分、酸素飽和度98%であった。呼吸音は全体的に弱く、副雑音は聴取されなかった。胸腔ドレーンからは淡血性の排液がみられ、ドレーン刺入部周囲には皮下気腫が軽度あり、エアリークが少量観察された。Bさんは、帰室直後は強い創部痛と肩痛を訴えていたが、硬膜外持続鎮痛法(5µg/mlフェンタニル+0.2%ロピバカインを4ml/hで投与)によって、その後はペインスケールNRS(numerical rating scale)1~2で経過した。

表 Bさんの術前後の血液検査結果

検査項目	単位	術前	術後 (術後2日目)	
RBC	×10 <sup>4</sup> /µl	430	350	A
Hb	g/dl	13.8	11.0	
Ht	%	42.1	35.0	
TP	g/dl	7.2	4.8	B
ALB	g/dl	4.6	2.7	
GLU	mg/dl	98	130	C
WBC	×10 <sup>3</sup> /µl	4.4	9.1	D
CRP	mg/dl	0.02	8.4	

問1 胸腔ドレーンの観察時にみられたエアリーク、皮下気腫とはどのような状態であるかそれぞれ説明しなさい。

問2 表は、Bさんの術前後の血液検査値を表したものである。A~Dの検査値の変化について、「手術侵襲と生体反応」の視点から推測される理由を記載しなさい。

問3 術後6日目、Bさんは胸腔ドレーンの抜去部の抜糸前に退院することとなった。創部の感染予防に関するセルフケア支援として看護師が説明する内容を1つ記載しなさい。

【問題4】以下の文章について、問1～4について答えなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

問1 小児の感染性胃腸炎の原因となる病原体について、主なものを3つ記載しなさい。

問2 小児の下痢によって生じやすい電解質異常は何か記載しなさい。

問3 小児の下痢の場合、止痢剤は服用させないもしくは慎重に投与する方が良い理由について記載しなさい。

問4 小児の感染性胃腸炎における家庭でのケアに対して「安静・保温」の他に指導する内容を2つ挙げ、それぞれ具体的に説明しなさい。